

大雨・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨量の目安・気象情報の種類と基準

大雨警報等の発表基準

レベル2 (大雨・土砂災害) 注意報	レベル3 (大雨・土砂災害) 警報	レベル4 (大雨・土砂災害) 危険警報	レベル5 (大雨・土砂災害) 特別警報
大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。	大雨による重大な災害が発生するおそれが大きいと予想される場合。	大雨による重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合。

表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標です。
土壌雨量指数とは、降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標です。

雨の強さと降り方

やや強い雨 1時間雨量10～20mm	強い雨 1時間雨量20～30mm	激しい雨 1時間雨量30～50mm	非常に激しい雨 1時間雨量50～80mm	猛烈な雨 1時間雨量80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※1時間雨量が110mm以上になると、気象防災速報（記録的短時間大雨）が発表されます。

風の強さと吹き方

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～30m/秒未満	30m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	屋外での行動は危険。走行中のトラックが横転する。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。



大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時の持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!